

令和3(2021)年

4月1日

第239号 毎月発行

編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館

毎月第4月曜日は休館日です

西東京市

公民館だより

電話での講座申し込みは、平日9時～17時をお願いします。

来館時・講座参加時のお願い

- ・自宅での事前検温、マスクの着用、入館時の手指消毒にご協力をお願いします。
- ・当日、平熱を超える発熱や体調不良がある場合は、来館をご遠慮ください。

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 休館中、問い合わせは柳沢公民館へ tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

この講座は、①映像を集中して観る、②覚えていること、認めたことについて話し合う、③もう一度映像を観る(鑑賞中発言可)、④再度話し合う、という次第で各回を進めました。20～70代の男女13人が参加し、うち4人は昨年度も実施した同講座への参加歴がありました。

鑑賞したのはそれぞれ20分程度の短編。講師(渡邊一孝)が選定した国内未発表作品で、国内外の若い監督らによる新しい作品中心でした。タイトルを明かさずに鑑賞を始めるので、参加者は事前に知識の収集や準備ができません。偏見がない状態で観て、知覚し、それを話し合っ共有します。さまざま場面における被写体・背景・状況のディテールなどを、多くの参加者が共通して覚えている場合もあれば、特定の参加者のみが特定の描写を強く覚えている場合もありました。同一の作品を観たはずなのに、それぞれに知覚・記憶していることが違うのです。

一度目と二度目それぞれの鑑賞のち、話し合いが進むにつれて徐々に講師が解説を展開し、作り手の意図や作品についての概要や詳細を明かしました。3回の講座で鑑賞した作中の舞台は中国・ミャンマー・マレーシア、市内で子育てをしています。子どもたちは日本で生まれ育っています。外見が違っても、日本の他の子どもたちと同じように、何にでも挑戦できる環境であってほしいと願っています。わたしたちは4人の家族で、夢に向かって一歩一歩進みます。いつか日本で難民のイメージがよくなる日まで」

アとさまで、監督の出自にかかわるセンシティブな問題や現地の社会問題を背景に含んだ作品もありました。時間が許せば、作品の題材や表現についてより深く追究できる可能性を参加者も感じ取ったようです。二度目見る際の面白さ。二度目も観たい(参加者の声)。

「短編を複数回観て話し合うのは魅力的な試み。感動(同じ感じ方)を共有するのではないところが良かった」「映画は何度観ても気がつきがあり、受け手によって感じ方がそれぞれ。当たり前前のことだけど大切なことに気付ける時間でした」。(参加者の声)

鑑賞したのはそれぞれ20分程度の短編。講師(渡邊一孝)が選定した国内未発表作品で、国内外の若い監督らによる新しい作品中心でした。タイトルを明かさずに鑑賞を始めるので、参加者は事前に知識の収集や準備ができません。偏見がない状態で観て、知覚し、それを話し合っ共有します。さまざま場面における被写体・背景・状況のディテールなどを、多くの参加者が共通して覚えている場合もあれば、特定の参加者のみが特定の描写を強く覚えている場合もありました。同一の作品を観たはずなのに、それぞれに知覚・記憶していることが違うのです。

一度目と二度目それぞれの鑑賞のち、話し合いが進むにつれて徐々に講師が解説を展開し、作り手の意図や作品についての概要や詳細を明かしました。3回の講座で鑑賞した作中の舞台は中国・ミャンマー・マレーシア、市内で子育てをしています。子どもたちは日本で生まれ育っています。外見が違っても、日本の他の子どもたちと同じように、何にでも挑戦できる環境であってほしいと願っています。わたしたちは4人の家族で、夢に向かって一歩一歩進みます。いつか日本で難民のイメージがよくなる日まで」

アとさまで、監督の出自にかかわるセンシティブな問題や現地の社会問題を背景に含んだ作品もありました。時間が許せば、作品の題材や表現についてより深く追究できる可能性を参加者も感じ取ったようです。二度目見る際の面白さ。二度目も観たい(参加者の声)。



カディザさんは既に難民認定を受けていた夫の呼び寄せにより、2006年12月に来日しました。カディザさんには日本に來たらかなえない夢がありました。「日本で勉強して、民族の問題解決のために貢献したい」。しかし実現には大きな困難を伴うことにすぐに気づきました。「まず日本語がとても難しいこと。物価も高く、生活を維持するのがやっとの状況で、どうやって学ぶことができるのだろうか」と、不安な思いを持ちました。ですが、カディザさんはあきらめませんでした。「なぜなら、わたしには難民という地位があります。迫害と戦ってきたというステータスです。難民はみなさんと同じように、笑い、喜び、悲しみ、夢を持っている人間です。教育があれば、難民も夢をかなえることができます。受け入れた国の負担になるのではなく、むしろその国の発展に貢献できる存在になるのです」

カディザさんは、日本政府による第三国定住難民の支援施設「RHQ支援センター」で日本語と生活について学び、必死に勉強しました。そして国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の奨学金制度を利用し、2009年青山学院大学に入学しました。在学中に2人の子ともも授かりました。今は働きながら、それぞれに知覚・記憶していることが違うのです。

カディザさんのお話の内容は、市ホームページで公開しています。併せてご覧ください。

最終回の今号は、東伏見エリアの彫刻をご紹介します。東伏見駅北口ロータリーの中央に建つ「ふれあい」。1984年の設置以来、40年近くこの街を見守ってきました。親子のふれあいや市民相互の交流を表すこの彫刻は、遠目には一見ハート型のようにも見えます。よく見るとそれが親子だとわかるという仕掛けを、作者が意図していたのかわかりませんが、造形全体からもやさしい印象を受けました。また、前回紹介した文理台公園の「母子像」も同年の設置です。核家族化がピークを迎え、近代家族観が崩壊していった時代に、親子をモチーフとしたこれらの彫刻には、どんな思いが込められていたのだろうかと考えが巡ります。

市では、したのヤマラをVR体験できるアプリ「VR下野谷縄文ミュージアム」など遺跡の知識を深める材料を用意しています。出土品は西原町の郷土資料室で見ることが出来ます。それらを活用し駅周辺に設置されているあと2基のモニユメントを見つければ、ぜひ下野谷遺跡を訪ねてはいかがでしょうか。

約2万人ともいわれる日本に暮らす難民の人々は、どのような思いで生活しているのでしょうか。市内に暮らすカディザ・ベゴムさんからお話を聞きました。「わたしはミャンマーのロヒンギャという少数民族の出身で生まれ育ったのはバングラデシュです。千年以上の歴史を持つ

ロヒンギャは、宗教、文化そして言葉の違いで、長年ミャンマーの軍事政権によって差別や迫害を受けてきました。国連が「世界で最も迫害を受けている少数民族」と表現するロヒンギャの人々は、日本にも現在200人ほど暮らしています。カディザさんは既に難民認定を受けていた夫の呼び寄せにより、2006年12月に来日しました。カディザさんには日本に來たらかなえない夢がありました。「日本で勉強して、民族の問題解決のために貢献したい」。しかし実現には大きな困難を伴うことにすぐに気づきました。「まず日本語がとても難しいこと。物価も高く、生活を維持するのがやっとの状況で、どうやって学ぶことができるのだろうか」と、不安な思いを持ちました。ですが、カディザさんはあきらめませんでした。「なぜなら、わたしには難民という地位があります。迫害と戦ってきたというステータスです。難民はみなさんと同じように、笑い、喜び、悲しみ、夢を持っている人間です。教育があれば、難民も夢をかなえることができます。受け入れた国の負担になるのではなく、むしろその国の発展に貢献できる存在になるのです」

カディザさんは、日本政府による第三国定住難民の支援施設「RHQ支援センター」で日本語と生活について学び、必死に勉強しました。そして国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の奨学金制度を利用し、2009年青山学院大学に入学しました。在学中に2人の子ともも授かりました。今は働きながら、それぞれに知覚・記憶していることが違うのです。

カディザさんのお話の内容は、市ホームページで公開しています。併せてご覧ください。

最終回の今号は、東伏見エリアの彫刻をご紹介します。東伏見駅北口ロータリーの中央に建つ「ふれあい」。1984年の設置以来、40年近くこの街を見守ってきました。親子のふれあいや市民相互の交流を表すこの彫刻は、遠目には一見ハート型のようにも見えます。よく見るとそれが親子だとわかるという仕掛けを、作者が意図していたのかわかりませんが、造形全体からもやさしい印象を受けました。また、前回紹介した文理台公園の「母子像」も同年の設置です。核家族化がピークを迎え、近代家族観が崩壊していった時代に、親子をモチーフとしたこれらの彫刻には、どんな思いが込められていたのだろうかと考えが巡ります。

市では、したのヤマラをVR体験できるアプリ「VR下野谷縄文ミュージアム」など遺跡の知識を深める材料を用意しています。出土品は西原町の郷土資料室で見ることが出来ます。それらを活用し駅周辺に設置されているあと2基のモニユメントを見つければ、ぜひ下野谷遺跡を訪ねてはいかがでしょうか。

報告

保谷駅前公民館主催 多文化カフェ

難民とともに生きる

ロヒンギャの女性のお話から考える

令和2年11月28日実施

「子どもたちは日本で生まれ育っています。外見が違っても、日本の他の子どもたちと同じように、何にでも挑戦できる環境であってほしいと願っています。わたしたちは4人の家族で、夢に向かって一歩一歩進みます。いつか日本で難民のイメージがよくなる日まで」

アとさまで、監督の出自にかかわるセンシティブな問題や現地の社会問題を背景に含んだ作品もありました。時間が許せば、作品の題材や表現についてより深く追究できる可能性を参加者も感じ取ったようです。二度目見る際の面白さ。二度目も観たい(参加者の声)。

アとさまで、監督の出自にかかわるセンシティブな問題や現地の社会問題を背景に含んだ作品もありました。時間が許せば、作品の題材や表現についてより深く追究できる可能性を参加者も感じ取ったようです。二度目見る際の面白さ。二度目も観たい(参加者の声)。

最終回の今号は、東伏見エリアの彫刻をご紹介します。東伏見駅北口ロータリーの中央に建つ「ふれあい」。1984年の設置以来、40年近くこの街を見守ってきました。親子のふれあいや市民相互の交流を表すこの彫刻は、遠目には一見ハート型のようにも見えます。よく見るとそれが親子だとわかるという仕掛けを、作者が意図していたのかわかりませんが、造形全体からもやさしい印象を受けました。また、前回紹介した文理台公園の「母子像」も同年の設置です。核家族化がピークを迎え、近代家族観が崩壊していった時代に、親子をモチーフとしたこれらの彫刻には、どんな思いが込められていたのだろうかと考えが巡ります。

市では、したのヤマラをVR体験できるアプリ「VR下野谷縄文ミュージアム」など遺跡の知識を深める材料を用意しています。出土品は西原町の郷土資料室で見ることが出来ます。それらを活用し駅周辺に設置されているあと2基のモニユメントを見つければ、ぜひ下野谷遺跡を訪ねてはいかがでしょうか。



最終回の今号は、東伏見エリアの彫刻をご紹介します。東伏見駅北口ロータリーの中央に建つ「ふれあい」。1984年の設置以来、40年近くこの街を見守ってきました。親子のふれあいや市民相互の交流を表すこの彫刻は、遠目には一見ハート型のようにも見えます。よく見るとそれが親子だとわかるという仕掛けを、作者が意図していたのかわかりませんが、造形全体からもやさしい印象を受けました。また、前回紹介した文理台公園の「母子像」も同年の設置です。核家族化がピークを迎え、近代家族観が崩壊していった時代に、親子をモチーフとしたこれらの彫刻には、どんな思いが込められていたのだろうかと考えが巡ります。